

2016年度 京都外国語大学 第1回大学院公開講演会

日 時：7月30日(土) 14時-15時30分

場 所：171教室(1号館7階)

講 師：池内正幸氏 [名古屋外国語大学英米語専攻長]

テーマ：ヒトのことばの起源と進化

-ミニマリスト・プログラムに拠る進化生成言語学のアプローチ

概要：

本講演では、まず、最近のミニマリストアプローチ(Minimalist Approach: MP)に拠り、普遍文法(Universal Grammar: UG)の統語操作は(集合/対)併合のみであると想定する。その併合の可能な前駆体について、(非)対称性・順次性に着目しながら新しい視点から考察・検討し、「言語」の「併合・語彙結合仮説」を提唱する。それをもって、ヒトの「言語」とする。次に、その「言語」がいつ起源したのかについて、考古学・古人類学・古地質学・遺伝学等々の最近・最新の成果・知見を駆使しながら、「出アフリカ」や、突然変異率、分岐との関係において考察し、これまで提唱してきた「言語早期発現仮説」における起源の想定年代をさらに狭め、特定することを試みる。最後に、言語の起源・進化研究の今後についての展望を述べる。

略歴：東京教育大学大学院文学研究科英文学専攻(博士課程)単位取得後退学(1976年)
マサチューセッツ工科大学言語学・哲学科(フルブライト若手研究員)(1989-91年)
津田塾大学大学院文学研究科委員長 2015.4~2016.3 津田塾大学言語文化研究所
所長 博士(文学)[東京都立大学](2003年)

著書：『言語の設計・発達・進化』2014年-共著-開拓社、『生成言語研究の現在(いま)』
2013年-共著-ひつじ書房、『ひとのことばの起源と進化』2010年開拓社、『言語と
進化・変化』2009年朝倉書店、『明日に架ける生成文法』2005年-共著-開拓社
ほか多数

問合せ：大学院事務室